

# 『五十音』

北原 白秋

あめんぼ あかいな アイウエオ

水馬赤いな。ア、イ、ウ、エ、オ。

うきもに こえびも およいでる

浮藻に小蝦もおよいでる。

かきのき くりのき カキクケコ

柿の木、栗の木。カ、キ、ク、ケ、コ。

きつつき こつつつ かれけやき

啄木鳥こつつつ、枯れけやき。

ささげに すをかけ サシスセソ

大角豆に醋をかけ、サ、シ、ス、セ、ソ。

そのうお あさせで さしました

その魚浅瀬で刺しました。

たちましょ らっぱで タチツテト

立ちましょ、喇叭で、タ、チ、ツ、テ、ト。

とてとて たったと とびたった

トテトテタッタと飛び立った。

なめくじ のろのろ ナニヌネノ

蛞蝓のろのろ、ナ、ニ、ヌ、ネ、ノ。

なんどに ぬめって なにねぼる

納戸にぬめって、なにねぼる。

はとぼっぼ ほろほろ ハヒフヘホ

鳩ぼっぼ、ほろほろ。ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ。

ひなたの おへやにや ふえをふく

日向のお部屋にや笛を吹く。

まいまい ねじまき マミムメモ

蝸牛、螺旋巻、マ、ミ、ム、メ、モ。

うめのみ おちても みもしまい

梅の実落ちても見もしまい。

やきぐり ゆでぐり ヤイユエヨ

焼栗、ゆで栗。ヤ、イ、ユ、エ、ヨ。

やまだに ひのつく よいのいえ

山田に灯のつく宵の家。

らいちょうは さむかろ ラリルレロ

雷鳥は寒かろ、ラ、リ、ル、レ、ロ。

れんげが さいたら るりのとり

蓮花が咲いたら、瑠璃の鳥。

わいわい わっしょい ワイウエヲ

わい、わい、わっしょい。ワ、イ、ウ、エ、ヲ。

うえきや いどがえ おまつりだ

植木屋、井戸換え、お祭りだ。

(底本) 白秋童謡集 第五集『祭の笛』大正11年(1922年)アルス刊

\*原文を右に、仮名での読み方を左に配置しました。

\*底本での旧字体は新字体に、歴史的仮名遣いは現代仮名遣いとしました。

\*仮名表記では、原文での句読点を省略し、適宜スペースを挿入しました。